



嬉しさに

我はここにて

舞遊ぶ

令和6年11月17日(日)

岩戸下永之内
神楽祭

岩戸下永之内 神楽祭 番付

令和6年11月17日(日)

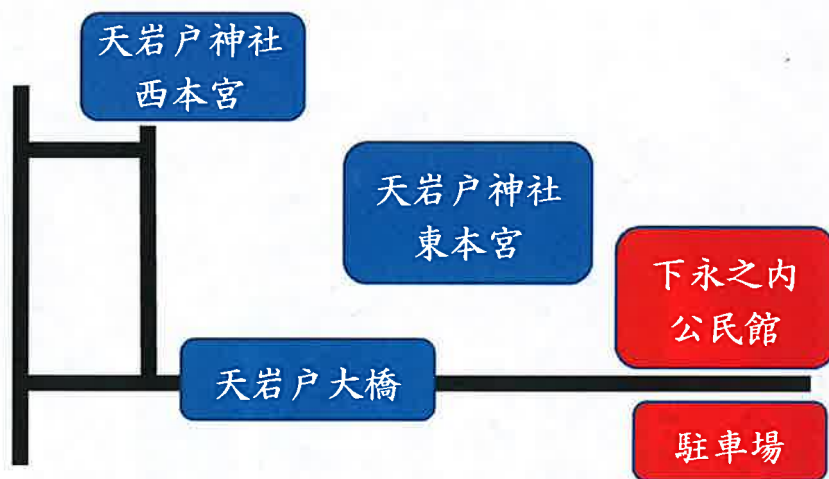
9:00 神事(天岩戸神社東本宮)

10:00 神楽(下永之内公民館)

- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 1. 神降 | 6. 岩潜り | 11. 柴引 | 16. 舞開 |
| 2. 鎮守 | 7. 酒こし | 12. 伊勢 | 17. 緑下 |
| 3. 杉登 | 8. 蛇切 | 13. 手力 | 18. 雲下 |
| 4. 地固 | 9. 八鉢 | 14. 鈿女 | |
| 5. 弓正護 | 10. 山森 | 15. 戸取 | ※番付は予定 |

17:00 片付け・直会(参加者による打上げ)

※ 観光の方は、自由にご見学下さい。天岩戸神社駐車場をご利用ください。



岩戸下永之内神楽祭開催にあたって

高千穂岩戸神楽は平安時代まで時代を遡るとされていますが、五穀豊穰、子孫繁栄、安全祈願など、極々普通の村祭りとして、私たちの暮らしの中にありました。

下永之内地区では、平成22年の公民館新築工事に伴い、夜神楽が復活し、その後10年間夜神楽を催行してきました。しかしながら、コロナ禍により数年催行が叶わず、出来るような情勢になった今では、過疎化や高齢化により負担の掛かる夜神楽が出来るのだろうかという課題が出てきました。

そこで、私たち下永之内地区は、永年伝承されてきた神楽を絶やさず後世に伝えていくことを目的に、皆で試行錯誤しながら新しい祭りを作り上げていくことを検討しました。そして昨年度から夜を徹して行う夜神楽ではなく、日中に行う祭りとして開催しています。特徴ある番手を舞いますので、高千穂観光として見ていただきますと幸いです。

神楽歌「嬉しさに我はここにて舞遊ぶ 妻戸も開けて御簾も降ろさず」
解釈(祭りを敷居なくやっているの、みんなで楽しみましょう)

下永之内公民館・下永之内神楽保存会



岩戸神楽番手解説 本来は、夜神楽として、それぞれに意味や願いがある33番を舞いますが、今回は以下の番付を予定しています。

神降（かみおろし）

神庭（こうにわ）を祓い清めて、諸々の神を招じる舞で、天神・地神・海神の3人舞です。33番の中でも難しい舞で、神楽の基礎となる舞になります。

鎮守（ちんじゅ）

神鎮まりの舞と言われます。神庭すなわち「村」を浄め（きよめ）、神が杜に降臨し鎮まりを願う舞とも言われます。足で地を踏む所作は、大地を踏み固めるという意味があります。奇麗な折敷（おりしき）の手という所作が特徴です。

杉登（すぎのぼり）

氏神が杉を伝わって降臨する舞で、降臨された神は里人と共に神遊びをされ、再び別れを惜しみながら帰ってゆかれます。33番の中で、最初に荒神が現れる舞で、神楽面はその集落に祀られている特別な氏神様の面（おもて）が着けられます。

- 降神の歌 嬉しさに我はここにて舞遊ぶ 妻戸も開けて御簾も降ろさず
- 昇神の歌 立ち帰り立ち戻り 後の都の不思議さよ みすず川の流れ絶えせん

地固（ぢがため）

国造り、田畑造りのために土地を堅固にする舞いと言われます。剣は水徳神を表し、水の力で耕地が堅固になり、水徳と地霊により穀種の発育を祈願します。

弓正護（ゆみしょうご）

弓の神威で悪魔を祓う神楽です。悪魔を祓い、豪傑を祓い、女人産所の悪魔を祓い、諸人の身を祓い、家内にある輩の妄念を祓い、村のため、梓（あずさ）の弓に弦を掛け、矢をはめて氏人の悪魔を祓うと言われます。この神楽は女人産所の悪魔を祓うため女性の帯を褌にします。調子の高い神楽歌が歌われ、舞のテンポも良い神楽です。

岩潜り（いわくぐり）

剣の舞です。岩間を走る激流という意味合いで、太刀を握って輪を作り潜りの手と言われる所作が行われます。剣は水徳神としての採物として用いられます。

酒こし（さけこし）

国産みの舞で伊邪那岐・伊邪那美命が仲良く新穀で酒を醸し、飲むほどに酔うほどに男女和合の絡みが出てくる楽しい神楽です。



蛇切（じゃきり）

高千穂では岩戸地区にしか伝承されていない舞で、素盞鳴尊の八俣の大蛇退治です。

八鉢（やつばち）

素盞鳴尊と櫛名田姫の婚儀喜びの舞と言われ、逆立ち舞などが行われます。子授け、子孫繁栄、豊穰、老若男女の元気な祈りとして陽の御神体を採物とします。

山森（やまもり）

舞人が弓と太刀を狩猟としての採物として山の神の降臨を招く神楽と言われます。題目の響きから、子守と掛け、小さな子供を抱いて舞い、成長を願います。



柴引（しばひき）

「この山は勢ある山なり、勢ある山の事なれば、榊一本根こぎにし、天岩戸の前にぞ植えそだて」と唱われ、太玉命が天香具山から榊を引き来り天岩屋戸の前に飾ります。

伊勢（いせ）

八百万神々が天安河原に集まり審議が行われ、その中心になられたのが、天児屋根命です。岩戸開きの神事として、岩屋戸の前を祓います。素面の舞になります。

手力（たちから）

手力雄命が岩戸幣と鈴を持ち、天岩屋戸の何処に大神がお隠れになっているかを探る舞です。静かに腰を落とし、鈴で聞き耳をたて、次に岩戸幣、再び鈴を構えます。この時「あらましますや大神殿、何とて出でさせ給はんや、出でさせ給はんことなれば、天が下は真の闇となる、この時、戸隠の明神まします」と唱われます。

細女（うずめ）

天細女命は神楽・舞踊・芸能の神として祀られます。高千穂の夜神楽では、静かに気品高く、優雅に舞われます。



戸取（ととり）

外の余りの賑わいに天照大神は岩屋の戸を少し開き、様子を伺います。この時、身を潜めていた手力雄命が力の限り岩戸を取り払います。髪を振り乱し、流れる汗を拭き、力を誇示する手力雄。禰を一瞬のうちに結ぶ早業にご注目下さい。岩戸を投げ給い、信濃国戸隠岳まで飛んで行ったとか。

舞開（まいびらき）

岩戸開きの妙案を企画された知恵の神様「思兼命」が大神の手を取り、再びこの世にお迎えになる喜びの舞です。宮司が祝詞を奏上し、舞の途中で日月を象徴する御鏡を渡します。「月と日をもろ手に持ちて舞遊ぶ、面白かれし末はめでたし」これから冬を経て、日の光の恵みの中で、春を迎える予祝の舞です。

繰下（くりおろし）

神送りの舞で「神庭」で神遊びを興じた神々は4本の糸を通じて再び神上がりをされます。4人の舞手が糸を引き、調子よく神楽歌を歌いながらエンディングへと向かいます。

雲下（くもおろし）

最後に高天原を象徴する、天井に吊るされた「雲」を下ろします。雲の網と四方の注連を取り、納めの儀式舞いとして奉納します。一日氏子（見物人）の皆様も参加し、一緒になって、舞い納めます。

